

## 平成30年度第8回地方独立行政法人京都市立病院機構理事会 議事録（要旨）

- 日 時： 平成30年12月25日（火） 午前10時30分から12時00分まで
- 場 所： 市立病院5階会議室
- 出席者： 理事長 森本 泰介  
理 事 黒田 啓史，半場 江利子，松本 重雄，位高 光司，山本 壯太，  
能見伸八郎，木村 晴恵  
監 事 長谷川 佐喜男  
事務局 阿部経営企画局次長，長谷川担当部長，大島担当副部長，榎木担当副部長，  
濱口経営企画課長，石田総務担当課長，桑原管理PFI 担当課長，  
北川京北病院事務長

### 1 開会

### 2 議事

#### (1) 経営状況月次（11月まで）報告

資料1に基づき，阿部経営企画局次長から説明

- 京北病院は稼働率の低下が課題である。入院，外来が減少し，在宅への訪問診療や訪問看護が増加しており，京北地域の傾向がはっきり出ている。このまま行けば，来年度以降も同様の稼働が続くと思う。機構全体として，対応方針を検討していく必要がある。
  - 京北地域の人口が減少する中，京北病院の入院稼働率が低下した分，在宅医療の比率が高まっている。
- 京北病院では，医療・介護・在宅のつながりをしっかりされている。老健施設の稼働率が高いことも評価するべきである。京北病院は，後期高齢者の利用が多い一方で，若い世代には利用されていないように感じる。若い世代の利用に繋がるような広報活動等を実施していくべきである。
- 前年度と比較し，紹介率が低下している。
  - 母数が影響している。救急患者が減少しているなど原因が考えられる。紹介患者の実数は，前年度と比較しても増加している。
- 外来の診療報酬単価が増加した要因は何か。
  - 高額な薬剤収益による影響もあるが，手技による収益も大きい。今年度の手技収益は，入院及び外来においても増加している。医師による手技収益を伸ばしていく。
- 手技収益が毎年伸びているのは，良い傾向である。

#### (2) 月次収支（10月まで）

資料2に基づき，阿部経営企画局次長から説明

- 借入金の内訳は何か。現金収支は厳しく，設備投資の効果をしっかり見極める必要がある。
  - 主に，新館建設費用，それに伴う医療機器購入費用，電子カルテ更新に係る費用が挙げられる。29年度に返済のピークは越えたが，30年度以降も返済が続く。引き続き，収支向上，経費節減の意識を持って病院全体で取り組んでいく。

#### (3) 日EU経済連携協定発効にともなう業務方法書の改正について

資料3に基づき，阿部経営企画局次長から説明  
議案のとおり承認された。

(4) 職員給与規程の改正について

資料4に基づき、阿部経営企画局次長から説明  
議案のとおり承認された。

(5) 地方独立行政法人京都市立病院機構の組織改正について

資料5に基づき、阿部経営企画局次長から説明  
議案のとおり承認された。

3 閉会